第３回　江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議
議事要旨

日時：令和 6 年 3 月 11 日（月）15:00～17:00
場所：(株）リクルート 41 階スカイルーム B（グラントウキョウサウスタワー内)
出席者（敬称略）：
筑波大学 名誉教授 石田 東生
公益社団法人日本観光振興協会総合研究所　顧問　丁野　朗
株式会社リクルート　地域創造部　部長　高橋　佑司
株式会社三菱総合研究所　主席研究員　宮崎　俊哉
実業家　ルース・マリー・ジャーマン
特定非営利活動法人全国街道交流会議　専務理事　古賀　方子
一般社団法人関東広域観光機構　専務理事　小堀　明夫
一般社団法人日本ウオーキング協会　事業統括専務理事　井上　成美
関東運輸局　局長　勝山　潔
関東運輸局観光部　部長　岡村　清二

議題：
（１）プロジェクトの取組状況と今後の展開
（２）意見交換

議事要旨：
（１）プロジェクトの取組状況と今後の展開
関東運輸局から、今年度に実施した取組と今後の展開について説明。

（２）意見交換
（各委員からのご意見）
【江戸街道プロジェクト全般】
・プロジェクトに取り組んでもらうには、スポンサー企業の皆さんにどんないいことがあるのかをしっかり言えることが必要。そのためにこれをやっていて、目指しているところはこういう姿だということを少なくとも話を持ち掛ける側が持ってないと協力は得られない。地域の金融機関を含めて、観光が成長産業だということを科学的に説明、納得してもらうことも重要。
・プロジェクトの自走に向けて、どれだけの事業者が動いてくれるかが重要である。成功事例を積み重ねて、他の地域でもやってみようという機運を醸成することが必要。事業としては食と宿泊に絞り込む。将来が見通せないと事業者は動かない。
・事業者が、自分たちでどうできるかということをもっと分かりやすくしたり、シンプルにしたり、取り組みやすくすることが重要。
・ビジネスになることを納得してもらうことはすごく大事。
・テーマが非常に広過ぎる。ターゲティングのセグメント、商品力のセグメント、街道の先行事例を作る

という example も散らかっている。推進する運輸局側も地域側もマーケティングを踏まえた取組とすることが重要。
・江戸街道プロジェクトのイベント実施にあたっては、五街道の起点・日本橋の国道 4 号の地下歩道（道路空間）を使って毎年展示イベントをしており、一緒にやっていただいたらどうか。

【江戸料理について】
・江戸料理が全国に影響を与えたということもあると思うが、逆に街道を通じて江戸料理が影響を受けたということもある。江戸料理を巡るエピソードとして、あるいはコンテンツの魅力を高めるために、長崎など他地域との交流によって生まれた料理があるなど、掘り下げるとさらに面白い。
・江戸食材、例えば魚介類は江戸前という言葉がもう通用しているが、江戸野菜という言葉はあまり聞かないため、京野菜のように江戸野菜を考えてみたらどうか。
・江戸料理を実際に広めていただくのは老舗の料理屋さんが多いと思う。観光庁の補助事業は外部からそこへ来て新規に旅館を造ることには補助金が出るが、その地域でずっとやっておられて税金を払っておられる方への補助はほとんどない。お世話になった料理屋などは改修が要ると思うので、観光庁に働き掛けていただきたい。
・ほとんどの外国人は和食と江戸料理の違いが分からないので、はっきりとストーリーを付けて区別させていかないと、付加価値化や差別化ができなくなってしまう。そのためには伝え方をうまく考えれば良い。

【分散型宿泊について】
・街道自体、宿場自体がもともとアルベルゴ的な要素があり本陣、脇本陣のようにたくさんの宿場があった。また、民家でも泊めていた。そのようなものをもう一回再生しながら、エリア全体を活性化しようというのが狙いなので、街道との関わりをもう一度きちんと整理しておく必要がある。

【プラットフォームについて】
・テストサイトではあると思うが、あまりアクセスがないので、様々な事業者と連携することができると良い。情報の更新含めて、自分たちで何とかしようとしてもなかなか難しい。
・サイト自身が誰に見てもらいたいものなのかをきちんと絞ることを考えていかないといけない。民間の情報会社と連携するときは、ここのサイトはどういう人たちをターゲットにして訴求したいのか、連携するとどんなメリットが得られるのか、そこ辺りも含めて考えて進めていける良いと思う。

【アプリについて】
・実証事業を行った結果を受けて地域に何を提案するかの記載があまりないため、これから行う事業では地域にどういうものを提供していくのかをしっかり書いておかないといけない。
・いろんな年代や属性など、現場の方が本当に参考になるようなデータをどうやって回収するかをもう少し深く考えていけば、現場の人たちに具体的なフィードバックができて、効果ある実証になるかと思う。

以上